

令和 8 年 1 月 29 日
国立大学法人筑波大学

全国の国立大学病院で初！
病気のこどもに寄り添う“医療チームの一員”
ホスピタル・ファシリティドッグ導入決定！

病院長が導入への熱い想いを語る
ファシリティドッグが医療現場で「実際に活動する」姿を公開

【プロジェクト概要】

茨城県内唯一の国立大学病院であり、特定機能病院でもある筑波大学附属病院では、がんや重い病気と向き合うこどもたちが、日々治療に取り組んでいます。治療や検査に伴う不安や恐怖、痛みは、こどもたちにとって大きなストレスとなっています。

本院では、小児がんなど長期の治療を必要とするこどもたちの QOL(生活の質)の向上を目指し、ホスピタル・ファシリティドッグ®(以下、ファシリティドッグ)を医療チームの一員として導入することを決定しました。

これまでの医療では十分に支えきれなかった「心のケア」を補い、医療スタッフと連携しながら、新しいかたちの医療支援に取り組んでいきます。

欧米では多くの医療機関でファシリティドッグの導入が進んでいますが、日本ではまだ少数の小児専門医療機関に限られており、全国の国立大学病院としては本院が初の導入事例となります。また、将来的には緩和ケア病棟などの一般病棟での大人のケアを行うことも視野に入れており、ファシリティドッグが大人も対象にケアを行うことは極めて珍しい取り組みとなります。

この取り組みを通じて、治療と向き合うこどもたちが少しでも笑顔で過ごせる時間を増やし、病気と向き合う日々の中でも未来に希望を持てる療養環境の向上を目指します。

【ファシリティドッグとは】

がんや重い病気と向き合うこどもたちのそばで、辛い治療や検査に寄り添い、安心感を与えるために専門的な訓練を受けた病院で働く犬のことです。

採血や点滴などの痛みを伴う処置の応援、手術室や放射線治療への付き添い、リハビリテーションへの参加、不安な時の添い寝や話し相手、緩和ケア等、医療スタッフと連携しながら安全に活動します。



国立成育医療研究センターで活動するマサ
点滴サポート
治療を受けるこどもに寄り添い、安心感と前向きな気持ちを届けています

当プロジェクトは、寄附によるご支援を受けながら段階的に準備を進め、2027年4月より、特定非営利活動法人シャイン・オン・キッズとの協働事業として「ホスピタル・ファシリティドッグ®プログラム」を開始する予定です。<https://sokids.org/ja/>

ファシリティドッグは、導入後6年以上にわたる継続的な活動を想定しており、初期費用に加え、育成・運営等の安定的な活動維持費が必要となります。ファシリティドッグの活動が、より多くの子どもたちに届くよう、この取り組みの継続には地域の皆さまからの温かいご支援が欠かせません。2026年3月4日に、クラウドファンディングによる寄附募集も予定しております。

【ご寄附について】

筑波大学附属病院ファシリティドッグプロジェクトホームページ



[各導入病院で活躍するファシリティドッグ]

治療を前に不安そうだった子どもたちが、犬のぬくもりに触れ、表情を和らげます



国立成育医療研究センターで活動するマサ
✿ 鎮静サポート



神奈川県立こども医療センターで活動するアニー
✿ 放射線治療付き添い



静岡県立こども病院で活動するタイ
✿ リハビリのサポート

全国でも国立大学病院でのファシリティドッグの導入は初めてです。
がん治療や高度先進医療と向き合う子どもたちが病気と向き合う日々の中で
未来に希望を持てる療養環境の向上を目指して参ります。

本件に関する問い合わせ先

筑波大学附属病院
医療支援課

email:facilitydog.hosp@un.tsukuba.ac.jp